SNS 上の自己呈示に関する研究
―顔写真の投稿を材料にして―

小川　桃

ソーシャルネットワーキングサービスとは、登録した利用者同士が交流できる Web サイトサービスのことであり、SNS と略される。近年、スマートフォンが普及し、それに伴って SNS を利用する人が増えた。日本でよく利用されている SNS の代表として、LINE、Twitter、Facebook、Instagram がある。このような SNS は便利であり、私たちの生活に欠かせないものになっていると言っても過言ではないが、その一方で SNS が原因で個人情報が漏洩し、トラブルに巻き込まれ、さらには犯罪に発展したという事件も過去に起きている。このように、SNS 上で個人情報を公開することについての先行研究として、太幡・佐藤(2016)がある。太幡・佐藤(2016)では、SNS のプロフィール欄に自己情報の公開を規定する心理的要因について「情報プライバシー」「人気希求」「犯罪被害リスク認知」の 3 つを利用して調査を行った。その結果、情報プライバシーが低いほど、人気希求が高いほど、さらに犯罪被害リスク認知が高いほど自己情報を公開する傾向にあった。また、鈴木(2017)は Twitter のアイコン画像を調べ、実際の自分の写真や本人が特定できるような画像をアイコンに設定することは自己開示の意味があるのではないかと考察していた。さらに、中村(2017)は SNS における自己表現傾向を把握するため、自己隠蔽を利用した。その結果、応答的発信のみをする人のほうが自己隠蔽の傾向があることが分かった。また、太幡・佐藤(2016)の研究では人気希求が高いほど、SNS のプロフィール上の自己表出が高い傾向が、犯罪リスク認知が高いほど自己表出性が高いという結果が得られた。

SNS と自己呈示に関係する研究は行われてきているが、タイムラインに投稿した写真と関連した研究は行われていない。そこで本研究では、自分の顔がわかる写真を SNS 上に投稿する人の心理的要因を検討した。仮説1「自己呈示の得点が高いほど SNS に顔写真を投稿する」、仮説 2「自己隠蔽の得点が低いほど SNS に顔写真を投稿する」、仮説 3「人気希求の得点が高いほど SNS に顔写真を投稿する」、仮説 4「犯罪不安が低いほど SNS に顔写真を投稿する」、以上の仮説を立てた。これらの仮説を検討するため、質問紙調査を行った。質問紙では、まず SNS の利用、閲覧、投稿、写真投稿、顔写真投稿、個人連絡の 6 つの頻度について尋ねた。さらに自分の投稿の公開範囲、自己呈示の下位因子である自己宣伝尺度、自己隠蔽尺度、人気希求尺度、犯罪不安尺度についても尋ねた。

分析の結果、SNS への顔写真投稿と上記のいずれの尺度との間にも有意な相関関係が見られなかったため、どの仮説も支持しないという結果になった。しかし、性別が顔写真投稿を有意に説明していたため、続けて性別ごとに分析を行った。その結果、基本的に男性よりも女性のほうが顔写真投稿をする傾向があり、また男女ともに LINE や Facebook よりも Twitter や Instagram のほうが顔写真投稿をするということが分かった。また男性において、Instagram で顔写真投稿をする人は人気希求が高いという結果が得られた。

本研究でわかったことは、自己呈示のために SNS に顔写真を投稿しているのではなく、性別が顔写真投稿に大きく影響を及ぼしているということである。また先行研究で情報公開の心理的要因として取り上げられていた自己呈示、自己隠蔽、人気希求、犯罪不安も SNS 別で一部では要因となっていたものの、全体で見たときに大きな要因となっていなかったことから、顔写真を個人情報と認識していないのではないかと考えられた。(社会心理学)